

# 令和2年度（2020年度） 梅花中学校・高等学校 学校評価

## 1. めざす学校像

- (1) 建学の精神に従い、キリスト教精神に基づき、他者への愛と奉仕の精神を備える自立した女性を育成する。
- (2) 多様な価値観を認めて隣人と連帯する意欲を持つ女性を育てる。
- (3) のびやかな感性を養い、調和のとれた知性を持って社会に適合し、社会に貢献できる女性を育てる。

## 2. 中間的目標

- 1、生徒指導充実のため、更なる教員のスキルアップ
  - (1) 全校生徒を対象、学校評価アンケートの実施
  - (2) 新人教員育成制度の導入
  - (3) 大学入試改革を控え、生徒へ自ら学ぶ姿勢を身につけさせると共に、英語4技能の修得と国際理解を深める指導の工夫。
- 2、ICT教育・アクティブラーニング(AL)を取り入れた授業の推進
  - (1) ICT機材を用いた授業研究の推進
  - (2) ALを取り入れた授業研究の推進
- 3、危機管理の徹底
  - (1) 火災・防災訓練の強化
  - (2) 災害時の危機管理マニュアルの充実・見直し
- 4、カウンセリング体制の強化
  - (1) スクールカウンセラーとの連携強化
  - (2) 不登校生徒への対応の強化
- 5、財務状況の共有化
  - (1) 財務説明会の実施
  - (2) コスト意識の改善

## 3. 学校評価の結果と分析

### 【生徒による学校評価の結果・分析】

各教科担当およびクラス担任に関して4段階（そう思う(4点)・だいたいそう思う(3点)・あまり思わない(2点)・思わない(1点)）で10項目のアンケートに回答を求めた。各項目別に中学・高校の平均値を算出し、評価とした。

中学は実習教科での評価が昨年より高くなり、普通教科とほぼ同様の評価となった。昨年、コロナ禍で実技を制限し講義を増やしたため下がったと考えられた評価が、今年度、様々な感染防止に取り組み実技を昨年より増やした授業展開が評価の回復につながったと考えられる。また、クラス担任、普通教科は共に各項目とも昨年とほぼ同様の高い評価であった。その中で「資料や映像などを使って興味がわくような工夫をしている」の項目が昨年より顕著な増加であった。この結果は、ICT機材を用いた授業を積極的に取り入れてきた結果であると考えられる。特にクラス担任で評価の高い項目は、「朝のクラス礼拝が整然と行われるように指導している」「学校行事では積極的にクラスと関わっている」であり、生徒との信頼関係も維持できていると考えられる。その中で、「指導の中で「見学の精神」や「スクールモットー」を考える機会が多い」は比較的评价が低く今後、授業方法の工夫が必要である。

高校はクラス担任・普通教科・実習教科ともに全ての項目でほぼ昨年と同様に、高い値であった。きめ細かい指導に対し評価されていると考える。

## 【専任教員による自己評価の結果・分析】

学校運営15項目・教育内容16項目・生徒指導支援6項目・教員研修資質向上5項目についてアンケート調査を実施した。項目ごとに、「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」「C：あまりあてはまらない」「D：まったくあてはまらない」の4段階で自己評価を行った。集計は、それぞれの評価を、Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点として、各項目の得点の平均値を算出した。また、A～Dの頻度を回答合計数に対する割合(%)で示し、重点課題の評価指標とした。集計結果から前回調査以後、改善された点、対応が必要な点などを洗い出し、今後の改善目標を明らかにした。

今年度は42項目中19項目で昨年度より評価が高くなった。特に評価が高まった観点項目は、「会議の有効性」、「学校行事」「教員の資質向上について」「校内研修」があげられる。詳細に見ると、昨年最も評価が高かった「愛校心について」は今年度大きく評価を下げている。反対に「学校行事」に対する評価は昨年コロナ禍によって大きく評価を下げたと考えられたが、今年度は大きく評価が向上している。感染症対策を施し出来る範囲で行事を実施してきた評価であると考えられる。「部活動」についてはコロナ禍により活動自粛が続いたため評価を下げた。昨年休校中に積極的にリモート授業を展開するなど対策を実施し評価を高めた「ICT教材の活用」、「情報能力の育成」、「学習指導による工夫・改善」はほぼ昨年度と同等の評価であった。

評価が低下した観点として、「授業公開」「家計との連携」「開かれた学校づくり」があげられる。昨年に続きコロナ禍により授業参観や各種行事、クラブ活動、国際交流、教員研修などが中止や規模の縮小が行われたため評価が下がったと考えられる。今後も、コロナ禍であっても出来ることを見つけ工夫することで生徒に満足してもらえる取り組みを実施していくなど重点課題として取り組む必要がある。

## 4. 学校関係者評価委員会からの意見 2021年10月28日実施

(出席委員) 校長・教頭・PTA会長・近隣地区自治会長・近隣地区社会福祉協議会役員

### 【令和2・3年度実施の教員自己評価について】

- ・カウンセリング体制についての評価が分かれているが、コロナ禍において心のケアも大切にして欲しい。若いときに不登校などを経験した事は一生に関わることになるので先生方も小さいことにも耳を傾けて欲しい。また、関連して保護者の子育てに対しての悩みを聞いてもらえるような保護者のためのカウンセリングや勉強会を作ってはどうか。親子関係が良くなれば、生徒も安定してくると思う。
- ・生活指導に対する評価が下がっているようだが、登下校で買い食いをしている生徒や駅でしゃがみ込んでいる生徒は見ないので大変良いと思う。
- ・スニーカーを履いている生徒が増えているように思うが、制定のローファーでなくても良くなったのか。→制定品の革靴で足が痛い生徒には申し出があれば別の靴も許可している。→革靴が問題ならば足が痛くならない材質の靴を検討してはどうか。

### 【令和2・3年度実施の生徒評価について】

- ・「建学の精神」「スクールモットー」に対して考える機会が少なく生徒は評価しているが、礼拝の守り方はどうなっているのか。→特に方法は変えていない。→卒業すれば3年間または6年間で身につけた精神・考え方は残っていると思う。
- ・先生方には生徒の話をよく聞いていただいているが、時には深いところまで聞かれて嫌な事もあるように聞く。生徒の様子を気に掛けて細かく見ていただいている現れだと思うが対応に注意が必要だと思う。
- ・厳しい先生が悪い評価になる訳でない。生徒のことを思って厳しい指導をしている先生の評価は悪くない。

【本年度の取り組み内容および自己評価】

中間的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取り組み 計画・内容	評価指標・進捗	自己評価
1. 生徒指導の充 実	(1)教員間の授業参 観を推進する。  (2)新人教員育成制 度の導入を検討・ 実施  (3) 英語 4 技能の 修得と国際理解を 深める	(1)授業参観期間を設定し、レポート の提出を義務化することで授業 改善を促す。  (2)新人教員にアドバイザー教員を 配置し、授業・生徒指導等でレポ ートを作成し育成をはかる。 新人教員を対象とした教員研修 を実施する。  (3)課外活動として英語を学ぶ機 会（外部講師での英会話・英検対 策講座、TOEFL 受験対策講座） の継続。また、イングリッシュホ ーンスの利用促進やイングリッシュ シャワーの継続。 外部ネイティブスピーカーと会話出来る 機会を増やす。	(1)教員による自己評価アンケート（以後自己評価） 教員研修「教員間で授業内容を評価、意見交 換を行う機会がある」の肯定的評価(A+B の 値)を 75%以上にする。1 学期はコロナ禍によ り教員間の授業参観は実施できなかった。  (2)自己評価・教員研修「初心者等、経験の少 ない教員を学校全体でサポートする体制があ る。」の肯定的評価を 70%以上にする。  (3) English Communication Day をリベラルア ーツコース対象に実施しネイティブスピーカーとの会話の 機会を増やした。また、英検 2 級以上取得者 を English Elite Member に認定しネイティブの 特別レッスンの受講を可能としたがコロナ感染 防止の観点から自粛期間が長期化した。 自己評価・教育内容「他国の歴史・文化の理 解、異文化交流など国際理解に対する教育活 動を取り入れている。」の肯定的評価を 80% 以上に保つ。	(1)2020 年度 30.6% 2021 年度前半 43.7% (×) 授業参観の回数を増やすこ とで充実を図る。  (2)2020 年度 22.3% 2021 年度前半 22.9% (×) 指導回数や計画的な研修・懇 談の導入など改善し、継続し て取り組む。  (3)2020 年度 75.0% 2021 年度前半 75.1% (△) イングリッシュホーンスの活用法 の工夫など、英語に触れる機 会を増やす取り組みを継続 して実施する。
2. ICT 教 育の推 進	(1)ICT 機材を用い た授業研究の推進  ・ ICT 環境の整備  (2)アクティブラーニング (AL)を取り入れた 授業研究の推進	(1)ICT 教育推進委員会を中心に 情報収集・校外研修に参加する ・新たに Wi-Fi の使用可能な教 室を増やす。 ・Wi-Fi の通信能力の増強を図る  (2)「みんなのドラマ」を活用しグ ループワークやプレゼンテーションを実施し 「主体的・対話的で深い学び」を 実施する。	(1) コロナ禍において ICT 教育推進委員を中 心にほぼ全教員が双方向オンライン授業を 実施。 「ICT 教材を活用した教育が活発に行われ ている」の肯定的評価 70%以上を目指す。 ・2020 年度前半 中庭・円形講堂・食堂・ 図書館などで Wi-Fi の使用が可能となる。 ・2020 年度中学全生徒に iPad を導入  (2)「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラー ニングの視点に立つ学び)に向けた教育を行って いる」の肯定的評価 70%以上を目指す。	(1)2020 年 83.3% 2021 年度前半 75.0% (○) 授業での効果的な活用をめ ざし重点項目として継続す る。 ・電子黒板機能付きプロジェク ター、Wi-Fi の使用環境が整う (○)  (2) 2020 年 52.3% 2021 年度前半 64.6% (△) 授業での効果的な活用をめ ざし重点項目として継続す る。
3. 危機管 理の徹 底	(1)火災・防災訓練 の強化  (2)不審者への対応 マニュアルの改訂  (3)災害への対応マ ニュアルを設定	(1)学期ごとに 1 回年間 3 回実施 する。  (2)校務分掌の変更など整理し、 現行の対応マニュアルの見直しを実施 する。 マニュアルを教職員で共有化し対応で きるよう訓練等を実施する。  (3)事故対応マニュアルを教職員で共 有化し対応できるよう研修・訓練 等を実施	(1)2020 年度コロナ禍の中 2 回実施にとどま った。 自己評価・危機管理「事故、事件、災害時に 対処する役割分担が明確にされている。」の 肯定的評価を 80%以上に保つ。  (2)2017 年改訂を行い教職員へ告知した。 自己評価・危機管理「危機管理マニュアル、警察、 消防と連携、訓練など学校の安全対策は十分 取られている。」の肯定的評価を 80%以上に 保つ。  (3)2019 より年 1 回のアフィリケーター対応のためエ ビペン使用講習およびてんかんの教員研修を 継続して実施する。  評価指標は上記(2)と同様	(1)2020 年度 69.4% 2021 年度前半 65.9% (×) 継続して取り組む  (2)(3)2020 年度 65.7% 2021 年度前半 79.2% (△) 継続して取り組む  今後(2)(3)を合わせて危機管 理マニュアルとし、訓練や見直し を継続的に実施することで 生徒教職員の安全確保を万 全にしていく。

<p>4. カウンセ セリン グ強化</p>	<p>(1)カウンセラーとの連携強化  (2)不登校生徒への対応強化</p>	<p>(1)カウンセラーと教員との懇談を定期的に実施する。  (2)別室登校の制度を確立し、対応の教員を配置することで、不登校生徒のクラスへの復帰をサポートする。</p>	<p>(1)カウンセラーを含め特別支援委員会を学期1回、定期開催したが、支援が必要な生徒の把握および対応方法が教員間で共有のため頻度を上げる。 自己評価・生徒支援「カウンセリングマインド」を取り入れた支援体制がある。カウンセラーの活用が出来ている。」の肯定的評価を80%以上に保つ。 (2)不登校生徒に対し、別室を設置、コーディネーター教員を配置している。教室への登校を目標に保護者、カウンセラーとも連携し対応を強化する。 評価指標は 上記(1)と同様とする。</p>	<p>(1)(2) 2020年度 86.1% 2021年度前半 73.0% (△) 特別支援委員会の強化を継続して取り組む。  コロナ禍の影響もあり不登校ぎみの生徒が増加傾向にあるため、対応強化に継続して取り組む。</p>
<p>5.財 務状況 の共有 化</p>	<p>(1)財務説明会の実施  (2)コスト意識の改善</p>	<p>(1)職員会議での財務説明会を実施する。  (2)職員会議等でコストに対する意識付けを喚起する。 ・節電 ・コピー用紙の使用量減</p>	<p>(1)職員会議で財務状況に触れる報告を心掛けた。 自己評価・財務関係「学校の経営指標と財務状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。 (2)節電も含め下校時間の徹底を図る。また、職員室を19時自動消灯とした。 コロナ感染防止のため換気を重視したためエアコンの使用が増えた。 電子データの配信により会議のペーパーレス化を目指す。 自己評価・財務関係「予算、決算の収支の状況について理解している。」の肯定的評価70%以上を目指す。</p>	<p>(1)2020年度 28.6% 2021年度前半 33.4% (×) 継続して取り組む。  (2)2020年度 22.2% 2021年度前半 27.2% (×) 継続して継続して重点項目とする。</p>